

ふりがな いい まさこ

氏名 井伊 雅子

## 1. 学歴

1986年 3月 国際基督教大学教養学部卒業

1993年 12月 ウィスコンシン州立大学マディソン校経済学部 博士課程終了, 博士号取得 (Ph.D., Economics)

## 2. 職歴・研究歴

1990年 7月 米国、ワシントン DC 世界銀行調査局研究員

1995年 4月 横浜国立大学経済学部助教授

2004年 4月 一橋大学大学院国際企業戦略研究科 教授

2005年 4月 一橋大学大学院国際・公共政策大学院 教授

## 3. 学内教育活動

### A. 担当講義名

#### (a) 学部学生向け

医療経済論

#### (b) 大学院

Microeconomics for Public Policy, Fundamentals of Econometric Methods, Economic Analysis of Social Policy, 公共支出論

### B. ゼミナール

大学院

### C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部では東京医科歯科大学との連携講義で医療経済論, 大学院は主にアジア公共政策大学院で統計・計量経済学, ミクロ経済学の講義, 社会政策の経済学など (英語による) を担当している。公共政策大学院で日本語の講義 (公共支出論) を担当する年もある。

専門職大学院の教育として, 理論と現実の政策の接点に重点をおいて講義を行っている。

## 4. 主な研究テーマ

- (1) 個票データを用いた日本の医療の質の評価
- (2) アジアの医療保険制度 (特に韓国と台湾) との比較分析
- (3) 経済発展と医療保険制度 (日本の医療保険制度史)

## 5. 研究活動

### A. 業績

#### (a) 著書・編著

『医療サービス需要の経済分析』井伊雅子・大日康史, 日本経済新聞社, 2002年

**(b) 論文(査読付き論文には\*)**

- \* "Community Perceptions and the Demand for Health Services: El Salvador, " (with Susan Kolodin) *Inter-America Development Bank Working Paper*, 1994.
- "Japanese Health Care Reform in the Context of a Rapidly Aging Population, " *Health Sector Reform in Asia, Proceedings of a Regional Conference, Asian Development Bank*, Manila, Philippines, pp.519-529, 1995.
- \* "The Demand for Medical Care: Evidence from Urban Areas in Bolivia, " *Living Standard Measurement Study (World Bank) Working Paper*, No.123, 1996.
- "Enhancing the Effectiveness of External Assistance: Social Impact of Adjustment Programs, " *Proceedings for the Seminar for Deepening Structural Reforms and Policies for Growth in Africa*, Ministry of Finance of Japan, IMF and the World Bank, Paris, France. 1996.
- 「高齢化の経済分析」『経済分析』(八代尚宏氏, 小塩隆士氏との共著) 第 151 号, 経済企画庁経済研究所, 1997 年。
- 「教育における市場と政府の役割について - 3 ヶ国の比較を中心に」『市場と政府 - ラテンアメリカの新たな開発枠組み』(小池洋一・西島章次編) 第 13 章, アジア経済研究所, pp.387-426, 1997 年。
- 「公共支出と貧困層へのターゲティング」『開発と貧困』(絵所秀樹・山崎幸治編) 第 4 章, アジア経済研究所, pp.131-159, 1998 年。
- \* 「家計データからみた南アフリカ共和国の貧困分析 特に家庭内送金と移住行動について」(赤林英夫氏との共著) 『アジア経済』 Vol.40, No.9-10, 1999, pp.165-182.
- \* 「風邪における医療サービスと大衆医薬の代替性に関する研究 独自アンケートに基づく分析」(大日康史氏との共著) 『医療と社会』 Vol.9, No.3, 1999 年, pp.69-82.
- \* 「軽医療における需要の価格弾力性の測定 疾病及び症状を考慮した推定」(大日康史氏との共著), 『医療経済研究』 Vol.6, 1999 年, pp.5-17.
- "Summary of Methods to Estimate Price Elasticity of Demand, " *Handbook for the Economics Analysis of Health Sector Projects*, Asian Development Bank, pp.85-94, 2000 年。
- 「疾病ごとの医療受診と大衆医薬需要の代替性」(大日康史氏との共著) 『医療サービス:市場化の論点』(瀬岡吉彦・宮本守編) 第 5 章, 東洋経済新報社, pp.75-89, 2001 年。
- \* 「インフルエンザ予防接種の需要分析」(大日康史氏との共著) 『日本公衆衛生雑誌』 Vol.48, No.1, 2001 年, pp.16-27.
- 「医療経済」『医学生のお勉強』(黒川清編著) 第 6 章, 芳賀出版, pp.339-429, 2002 年。
- 「患者負担増による医療費抑制効果」『医療白書 2002 年度版』第 2 章, pp.17-31, 日本医療企画, 2002 年。
- \* "Should the Coinsurance Rate be Increased in the Case of the Common Cold? An Analysis Based on an Original Survey" (with Yasushi Ohkusa) *Journal of the Japanese and International Economies* 16, 3, 2002, pp.353- 371.
- \* "Price Sensitivity of the Demand for Medical Services for Minor Ailments: Econometric Estimates Using Information on Illness and Symptoms" (with Yasushi Ohkusa) *The Japanese Economic Review* 53, 2, 2002, pp.154-166.
- \* 「わが国における女性賃金水準の就業行動への影響の分析」(縄田和満氏との共著) 『日本統計学会誌』 32 巻, 第 3 号, 2002 年, pp.279-290.
- \* 「疾病毎の医療受診と OTC 需要の代替性に関する分析」(大日康史氏との共著) 『季刊・社会保障研究』 38 巻, 2 号, 2002 年, pp.157-165.

- 「ゲーム理論」の導入が抜本改革への近道」『ばんぶう』日本医療企画, pp.60-67, 2002年。
- 「医療費を考える:消費者の需要行動と医療の質から」『患者のための医療』篠原出版新社, pp.733-738, 2003年。
- \*「生活習慣と主観的健康評価についての実証分析」(両角良子氏との共著)『医療と社会』Vol.13, No.3, 2003年, pp.45-72。
- \*「横浜市における救急医療の需要分析」(大重賢治氏, 縄田和満氏他との共著)『日本公衆衛生雑誌』Vol.50, No.9, 2003年, pp.879-889。
- 「社会保障」現代世界経済叢書『日本経済論』(植松忠博・小川一夫編著)第10章, ミネルヴァ書房, pp.227-250, 2004年。
- \*「職場の喫煙規制に関する実証分析」(両角良子氏との共著)『医療と社会』Vol.14, No.1, 2004年, pp.109-124。
- \*"Estimation of the Labor Participation and Wage Equation Model of Japanese Married Female by the Simultaneous Maximum Likelihood Method" (with Kazumitsu Nawata) *Journal of the Japanese and International Economies*, 18, 2004, pp.301-315.
- \*「眼科水晶体手術における在院日数の離散型比例ハザード・モデルによる分析」(縄田和満, 石黒彩, 川淵孝一氏との共著), 2006年, 『医療経済研究』Vol.18, No.1, pp.41-55。
- 「医療の基礎的実証分析と政策:サーベイ」(別所俊一郎氏との共著)2006年, 『フィナンシャルレビュー』第80号, pp.117-156。
- \*"The impact of smoke-free workplace policies on smoking behaviour in Japan", (両角良子氏との共著) 2006, *Applied Economics Letters* 13, pp.549-555.
- \*「水晶体の単眼・両眼手術における在院日数の分析」(縄田和満, 石黒彩, 川淵孝一氏との共著), 2006年, 『医療と社会』Vol.16, No.2, pp.167-180。

## B. 最近の研究活動

### (a) 国内外学会発表

- "Empirical Evidence of Primary Prevention, Secondary Prevention, and Medical Demand" 4th International health Economics Association, World Congress, June 2003.
- 「眼科手術における在院日数の離散型比例ハザード・モデルによる分析」日本経済学会 2004年度秋季大会, 2004年9月。
- "Health Care Delivery and Financing in Japan, Korea and Taiwan," International Symposium on Health Care Systems in Asia, Hitotsubashi University, January, 2005.
- "Policy Options for Health Insurance and Long-term Care Insurance: Health Care Financing in Japan, Korea and Taiwan," Final meeting and international forum for ESRI (Economic Social Research Institute at the Japanese Cabinet Office) Collaboration Projects, February, 2005.
- 「水晶体の単眼・両眼手術における在院日数の比較分析」日本経済学会 2005年度秋季大会, 2005年9月。
- 「病院の明日を拓く--独立行政法人・公立病院・民間病院3者によるシンポジウム-」第48回全日本病院学会 徳島学会, 2006年11月3日。

### (b) 国内研究プロジェクト

- 「わが国における女性賃金水準の就業行動への影響の分析」(2002年度-2003年度, 科学研究費補助金助成研究, 研究代表者)

「医療の質の評価」(2003年度, 学術振興野村基金)

「プログラム評価のための計量的手法の応用 - 日本の家計個票データを用いた分析 - 」(2004年度-2005年度, 科学研究費補助金助成研究, 研究代表者)

「国民皆保険制度不在における無保険者・慈善医療の研究」(2005年度, 厚生労働科学研究費補助金助成研究, 研究分担者)

「医療施設における Health Literacy 向上のための「学習処方」の評価に関する研究」(2006年, 上原記念生命科学財団研究助成, 研究代表者)

「医療データの計量手法による分析」(2006-2008年度, 科学研究費補助金, 基盤研究(B), 研究代表者)

「現代経済システムの規範的評価と社会的選択」(2003-2008年度, 21世紀COEプログラム・研究拠点形成費等補助金(研究拠点形成費)事業推進担当者)

### (c) 国際研究プロジェクト

「医療・介護市場の政策分析」(2004年度-2005年度内閣府国際共同研究, 共同研究者)

「医療教育シミュレーター普及・開発・評価研究」(ファイザーヘルスリサーチ振興財団国際共同研究, 2006年度共同研究者)

## 7. 学外活動

### (a) 他大学講師等

2002年- 現在 東京医科歯科大学歯学部

2002年- 現在 名古屋大学大学院工学研究科

2003年-2004年 一橋大学大学院国際企業戦略研究科

2005年- 東京大学医療政策人材養成講座

### (b) 参加学会および学術活動

日本経済学会, International Health Economics Association

### (c) 公開講座, 開放講座

「病院の評価: 医療データの集め方・分析の仕方」ハワイ大学ヘルスエグゼクティブMBA講座, 2002年8月31日, 9月1日

「医療の質の評価とは?」『医療の質を考える』七夕医療フォーラム in 盛岡 2004, 2004年16年7月10日

「医療保険制度の現状と改革の方向性」経済同友会「医療・介護プロジェクトチーム」, 2004年11月15日

「日本の医療保険制度改革: 韓国と台湾の医療保険制度改革と比較して」名古屋ロータリークラブ, 2004年11月30日

「日本の医療を考える」第25回なごや会議, 2005年8月26日・27日

「厚生労働省の医療制度構造改革試案をめぐる議論」埼玉県国民健康保険連合会, 2005年11月1日

「医療制度構造改革試案を検証する」健康保険組合連合会東京連合会, 2005年12月12日

「東アジアの医療制度改革の経験」内閣府経済社会総合研究所, 国際フォーラム『諸外国の経験に学ぶ医療制度改革』, 2006年2月13日

「データに基づいた医療制度改革 韓国・台湾の経験から学ぶ」財務省ランチミーティング, 2006年3月10日

「データに基づいた医療制度改革 韓国・台湾の経験から学ぶ」日本医療政策機構 朝食会, 2006年7月6日

「データに基づいた医療政策」平成 18 年度医療政策シンポジウム, 日本医師会, 2006 年 12 月 1 日

## 8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

---

政府税制調査会 (特別委員) 2006 年-

日本医師会 日医総研戦略会議 (委員) 2006 年-

厚生労働省 社会保障審議会 医療保険部会 (委員) 2003 年-

厚生労働省 独立行政法人評価委員会 (委員) 2001 年-

「医療経済研究」編集幹事 2004 年-

安倍フェロースシップ審査委員 2003 年-2006 年

横浜市衛生局 患者の安全管理に関する評価委員 2003 年-2005 年

新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) 技術評価委員 2002 年-2003 年

## 9. 一般的言論活動

---

「経済学のキーワード: DRG/PPS」『経済セミナー』, 2003 年 4 月号

「高齢者医療が映す日本の医療保険問題」『経済セミナー』, 2003 年 11 月号

「日本の医療制度問題」『ヌーベル・エポック』 関西社会経済研究所, 2005 年 2 月 20 日

「医療の質を科学的に評価し, 報酬に反映させるべき」『メディカル朝日』, 2005 年 4 月号

「医療保険制度・診療報酬と医療の質の適切な関係について」『医療経済研究機構レター』, 医療経済研究機構, 2005 年 6 月号

「質向上と医療費適正化が医療保険制度改革の前提」『週刊社会保障』, 2005 年 9 月 26 日

「高齢者医療改革」『日本経済新聞』, 2005 年 7 月 6 日

「医療政策立案に必要なデータ」『日本経済新聞』, 2006 年 12 月